

能美ロータリークラブとのタウンミーティング

日 時 令和6年3月15日（金）13時10分～13時40分

会 場 寺井地区公民館 303会議室

参加人数 35名

1. 開会

2. 能美ロータリークラブ会長ご挨拶

3. 井出市長市政報告

○はじめに

・いよいよ明日は北陸新幹線、IRいしかわが全線開業する石川県にとって大変記念すべき日である。明日は朝の5時50分から小松駅で歓迎セレモニーがあり、その後能美根上駅でIRいしかわ鉄道のイベントもある。明後日は、全日本競歩能美大会が開催され、パリオリンピックの出場選考も兼ねている大会になっている。今日は「能美市でののみみ過ごそう」というテーマでお話させていただく。

○令和6年能登半島地震

・能美市でも震度5強を観測した。いろいろ被害が出ており、家屋で1100件の罹災証明書の申請があった。住家以外の車庫や納屋では約470件、事業所でも大きな被害が出ており、申請が約160件あった。

・被害の顕著な事例では、緑が丘の道路の陥落。法面が崩落したことに伴い陥落した。また下水道のマンホール等の周囲が陥没する被害が多く出ている。美化センターの法面が崩れ、九谷焼美術館の五彩館では、展示作品が倒れて破損した被害もあった。1月の議会で5億1700万円の復旧費用を承認いただいたが、さらにまだ増える見込み。市内の復旧復興に最優先で取り組むとともに、能登への支援をいろいろとやってきている。

・具体的には、人的な支援として保健師や消防隊の派遣、それから車両支援として消防車

や救急車、給水車、パッカー車の派遣を行っている。

・皆さんからいただいた物資を能登に届けたり、二次避難所・広域避難所として市内の五つの旅館、ホテル、辰口福社会館を設定させていただいた。

・現在市内の旅館等には約70名避難されておられるが、それ以外に被災者の友人や親戚のご自宅に避難されている方が150名ぐらいいらっしゃる。我々は避難所に避難されている方には、いろいろな支援やサポートができるが、ご自宅にいらっしゃる方には避難所にいらっしゃる人と同等のサポートができない。どこに居られるかわからないことから、避難者生活サポート窓口を開設し、能美市に避難されている全ての皆様に同じ支援をしていこうという取り組みをやっている。

・避難所にペットもやってくる。当初、どんな人が来るか、犬や猫が来るのか全然わからないまま避難者を受け入れた時期もあったが、ペットも受け入れ体制を整えた。

・市内の多くの皆様からご支援をいただいた。ボランティア団体やいろいろな協会の皆さんからお世話をいただくことができた。避難をされている人たちへのヨガ教室をやってもらったり、どんなお悩みがあるかを巡回して聞く傾聴ボランティアをしていただいたりした。理容協会の皆さんに散髪をしてもらったり、どこか行きたいところはないですかと、無料で車に乗せていろいろお連れしたり、趣味などで気を紛らわしてもらえないか、お菓子作りをしてもらったりもした。

・ボランティアをやりたい、いろいろな支援をさせてもらいたいというお声がたくさん我々のところにあって、そういったことはマッチングが大事なので、ネットワーク会議というものを開催して調整もさせていただいてきた。

・今日ご参加の皆さんから本当に多くのご支援、ご厚情をいただいたことに改めて感謝を申し上げたい。まだまだ能登の復旧復興には時間がかかるとしており、我々能美市としても能登の復旧復興がなされるまで、能登の皆さんの心に寄り添って支援をしていきたいと思っている。

○令和6年度当初予算案

・能美市の現状、今後何をやっていくかを少しずつですがお話をさせていただければと思う。今、令和6年度予算の編成を終え市議会が開会しており、予算案を議会に上程させていただいている。3月21日の閉会日に予算の承認をいただくことができれば、今から申し上げることが実行できるとご承知おきいただければと思う。

・能美市の状況は、全国的にそうだが人口減少、少子化・高齢化であり、そして能美市は企業誘致が好調なことから、大きな人材不足になっている。

・市民力・地域力が大分落ちてきている。能美市の強みの一つでもあった市民力・地域力が落ちてきていると思われる一つの事例が、壮年団や女性会、婦人会に登録されてる人数が大幅に減ってきていること。例えば壮年団は、私は寺井町に住んでいるが、一番多い時で150人ぐらいいたが、今は40人を切っている状況。市内に74の町会・町内会があるが、婦人会が解散してしまっているところもある。

・新型コロナウイルス感染症が拡大したことによって、人と人との交流が制限されていたことや、価値観の変容、人が集まるところに行かなくても、スマートフォン一つでいろいろコミュニケーションが取れたり、みんなが集まっているところに行くのが煩わしいという方が増えてきていることから、今市民力・地域力が本当に落ちてきていて、これを何とかしなければいけないという思いで、いろいろな施策を考えている。

・いろいろ課題がある中で少し明るい話題もある。能美市は、市税の収入が伸びている。令和元年度に初めて90億円を超え、令和4年度も過去最高額で90億9000万となり、コロナ禍で落ちこみがあるかと心配していたが、令和5年度も見込みだが90億円を超えそうである。

・この背景にあるのは、企業誘致と地元の産業が好調だということで、固定資産税と法人市民税がずっと伸びてきている。多くの企業さんに進出、増床をしていただいている。電子関係の会社は社屋も大きい、中に入る機械の金額が高額なことから、固定資産税が安定的に入ってくる。加賀東芝で、第一次で1000億、第二次で2000億円という投資をしていただけと聞いており、TOPPANも進出をしていただけることとなった。

・福島グランパークという産業団地では、23ヘクタールを造成をした。最初に保育園が来てくれて、その後四つの企業が来てくれた。先日大和ハウス工業が商業施設をそこに作ってくれるということになり、おかげさまで完売となった。福島グランパークには加賀海浜産業道路が通っており、手取川に一本橋ができたことで、本当に便利な道になり、すぐに川北町にいけるようになった。この道路は、最終的には金沢港と結ばれ、小松空港とも結ばれている。

・令和6年度の当初予算は275億6000万円で計上しており、過去最高額を更新している。昨年もお話ししたが、能美市の施策というのは全て移住定住の促進に繋がるように行っている。

・私は自治体の勢いを示す指標は、人口が一番わかりやすいと思っていて、いかに人口を

伸ばすかが大切だと思っている。人口というのは自然動態と社会動態の二つある。亡くなる人よりも生まれてくる赤ちゃんの人数が多いと自然増。引っ越して行く人よりも引っ越してくる人が多いと社会増。能美市は社会増で、引っ越してくる人が多い。でも最近、コロナの影響もあるのか生まれてくる赤ちゃんの人数がぐんと減ってきていて、最近は自然減が進んできている。その自然減を社会増でカバーできていない状況で、少し能美市は人口が減っている。

・企業誘致が好調なことを生かして、社会増をいかに増やしていくか。生まれてくる赤ちゃんを1人でも多くするために、赤ちゃんを産んでみたいと思ってもらえる施策をどうとっていくか、それから健康寿命をどうやって伸ばしていくかを一生懸命やっている。

○防災減災対策

・今年も五つの目標と方針を設定しており、一つ目が防災減災対策。地震に対してどう向き合っていくかということ。今回の地震は1月1日の16時10分だった。テレビで津波警報が出され、能美市内の丘陵地に向かう道で大渋滞がおきた。避難所を開設したが、元日ということもあり、市の職員が着く前に避難する人が先に着いて、一刻も早く避難所に入りたいたとガラスを割って鍵を開けて入られた事例もあった。

・地震が起きた、津波警報が発表された、そんなときに我々はどうやって市民の皆さんに避難をしてもらえるか、どうやって安全安心を確保していくかが新たな課題として見つかった。

・これまでも台風や大雨があり、そのときはいろいろな対策や対応をしてきたので、経験も積み重なっている。地震と台風・大雨の大きな違いは、大雨や台風は予想ができるので、ある程度我々は事前の準備ができる。ところが、地震津波は準備ができない。そういった事例を今回教訓として考えて、市民の皆さんにどうやっていろんな自然災害のときでも、安全安心に避難してもらうか、命を守ってもらえるか、財産を守ってもらうかをもう1回やらないといけないと思っている。

・耐震工事やブロック塀が壊れた時の補助額の増額も行っていく。また、防災マップをもう1回作り直したり、家に防災マップがあっても、大きな被害があった時に見る人なんてほとんどいない。おそらく多くの人たちがスマートフォンぐらいは持って逃げるので、防災マップを電子化させて、スマートフォンで見てもらえるように変えていく。

・専門家を入れて今回の地震、津波発生を教訓に、市民の皆さんにどんな情報を、どんな

タイミングで発信すればいいのか、我々はどんなことをすればいいのかを一年かけて積み上げていく。

・これまでもある程度の備蓄品を能美市は持っていた。だが今回の能登の震災で考えると、例えばトイレはほとんど持っていなかった。今回の震災で皆さんトイレが必要だと仰る。簡易トイレを備蓄として持たないといけない、ではどれぐらい必要なのかということもある。1月1日はたまたま晴天だったのでよかったが、根上総合文化会館の暖房が地震で壊れ、それに伴って根上総合文化会館に避難してもらうことが出来なくなり、CIメディカルの新社屋で受け入れていただいた。その後なんとか根上総合文化会館の暖房は復帰できたので戻ってもらったが、暖房器具をどれだけ揃えなければいけないか新たにいろんなことを学んだので、今後しっかりと対応していかないといけないと思っている。

・一昨年の大雨のときに我々が学んだ教訓。市民の皆さんに雨の情報を流す場合は、ほぼ防災行政無線とホームページ。防災行政無線はそれぞれのご家庭にあると思うが、その場所にいなければ聞くことができない。それから大量の情報を流すと聞き漏らしてしまうことから、文字で流してほしいという要望がずっとあった。3年前から準備をしてあり、既に皆さんには能美市公式LINEとして発信をしている。災害情報だけでなく能美市のいろんな情報が、3クリックくらいで見れるようになっているので、ぜひお友だち追加をしていただければと思う。

○市民力、地域力の強化

・来年2月には能美市誕生20周年を迎える。それに向かって、いろんなことをやっていかなければいけないという思いの中、能美市誕生20周年ふるさと愛醸成事業がある。能美市内には74の町会・町内会があるが、20周年を一緒に盛り上げていきましょう、また震災のいろんな被害に充ててもらえればと、町会・町内会の活動に対して補助をして能美市全体で盛り上げていければと考えている。

・1人でも多く赤ちゃんを産みたい、そう思ってもらうには経済的な負担をいかに減らしていくかが重要なことから、昨年の2学期から中学生、3学期から小学生も学校給食を無償化した。

・市民力・地域力を上げていくためには、健康でないといけない。がん検診の補助率を上げて、皆さんに検査を受けてもらえるようにしていこうとしている。今は、日本の人口の半分、50%ががんに罹患すると言われている。早期発見、早期治療が大事なことから、が

んは昔は致命的な病だったかもしれないが、今は医学がどんどん進歩して治る可能性が高い。そのためには早く発見し、検査をしてもらうことが重要だと、そんな制度を作っている。

○地域ブランドの確立

・ウェルビーイング指標というものがあり、これは地域幸福度という指標。デジタル庁のデジタル田園都市国家構想交付金に能美市は2年連続採択され、国から交付金をもらうことができた。その交付金をもらった自治体を対象に、ウェルビーイング指標の調査をし、それを分析して、能美市はどんなところが弱みで、市民が何を望んでいるかを表したものになっている。

・能美市民がどんなところに弱みを感じているかというと、3つある。一つ目は、買い物する場所、飲食する場所が少ない。二つ目は、遊びや娯楽をする場所が少ない。三つ目は移動交通が不便ということです。私は、遊びや娯楽では、動物園や遊園地もあるし、温泉もある。最近ではフィールドアスレチックの施設もできて、石川県の中でも多いんじゃないかと思っているんですが、そういった施設はもっと欲しいと言われている。

・買い物、飲食では、やはり一定程度大きなスーパーのようなものが欲しいのではないかなと思うが、能美市の中にもいろんな素晴らしいお店があると思っている。ただ、こういったお声もあるので、商業施設を福島グランパークに作りたいと思い今やろうとしている。

・遊び、娯楽では、能美市もいろんなスポットがあるが、それぞれの施設を点ではなく面で繋いでいこうと考えている。例えば里山エリアには、バーベキュー場があったりフィールドアスレチックがあったり、ヘラブナ釣りができる池がある。それから、トレイルランニングといって山の中を24時間走るそんな競技があるが、今能美市はその聖地だと言われている。和気の岩にはドックランがあり、大人気となっている。大型犬が遊べる場所が少ないという声があったので、整備をしていく。

・根上の道林町のパークゴルフ場が大変人気がある。そのクラブハウスが結構傷んでいるので、新しくしていく。翠ヶ丘運動公園もなかなか開発が進んでいかないが、ニュースポーツができる場所に変えていく。

・九谷焼の活性化ということから、九谷陶芸村の体験館をリニューアルする。陶芸村のビッグモニュメントは中に人が入ることができ、おそらく中に入れる陶磁器は世界でもここだけじゃないかと思っている。

・ウェルネスハウスSARAIは日本の小宿10選に選ばれた。世界で唯一の九谷焼のホテルで、8室あるがそれぞれの部屋のデザインを九谷焼の若手作家さん8人が手掛けており、お風呂には著名な九谷焼作家の大きな陶板がかざられている。

・買い物、飲食では能美市の特産品を開発していこうと思っている。農業も大切だと考えていて、食料自給率を上げる、日本の慣れ親しんだ田園風景を守っていかなくちゃならないことから支援をしていきたいと考えている。

・能美市の水害対策の大きな一つとして、宮竹用水の停水を締結させていただいた。宮竹用水は、能美市や小松市の田んぼなどに水を供給しているが、大雨が降ったときには手取川からの取水を止めてもらうことになった。そうすることで、用水ではなく排水路として使えるようになった。能美市には海に直接注ぐ川がないので、市内に降った雨をいかにして手取川や梯川に流すかによって、能美市を水害から守れる。宮竹用水が大変重要な機能を示すということで締結させていただいた。

・北陸新幹線県内全線開業となり、能美根上駅周辺の活性化もしていく。電車の接近メロディーが、今まではJ R西日本だったので通り一辺倒のメロディだったが、今度また皆さんご存じの「栄冠は君に輝く」に変更する。作詞をされたのが能美市の加賀大介さんで、5年ぐらい前もこのメロディーを流していたが、経営がIRいしかわになるこのタイミングでお願いをしたら採用され、またこのメロディが流れるのでぜひ聞いていただければと思う。

・企業誘致が好調な分、その相乗効果を高めていくために宅地を造成していかないと、定住してもらえない。能美市の企業に採用された人たちの宅地が能美市内に不足をしていて、今いろいろな事をやっている。和光台5丁目も分譲を開始し、吉原釜屋や末信町でも宅地の開発がされた。加賀産業開発道路沿いの金沢大学が持っていた土地を能美市で購入して、ここに新しい街を作っていく予定もしている。

・我々市だけでは難しい面もあり、石川県宅地建物取引業協会や全日本不動産協会石川県本部と協定を結んで、一緒になって販売をしてもらったり、空き店舗バンクの登録させてもらったりして、活性化していく取り組みを今やろうとしている。

○インクルーシブシティ構想

・インクルーシブというのは、誰も取り残さない、仲間はずれにしない、能美市が目指す地域共生社会という意味。地域共生社会というのは、能美市に住んでいる健康な人も、障害をお持ちの方も、外国人も、高齢者も、お子さんも全ての人が安全安心快適に暮らせる

社会ということ。

・いろんなことをやろうとしている中の一つに、ライドシェアがある。今、小松市や加賀市がライドシェアをやろうとされているが、この対象は観光客だと思う。能美市がやろうとしているのは交通弱者の人が対象。山間部に住んでいっちゃって車がない人や、ある一定の理由で車が運転できないような人たちに使ってもらえる仕組みを今考えている。

・地域通貨・デジタル通貨も導入をしていく。今のみ商業協同組合が使っているシステムが大分古くなってきていて、更新もなかなかできないこともあり、我々にとっても地域の皆さんに、より買い物を便利にしてもらい、いろんなポイントをそこに付けることによって総合的に市内を発展させていきたいという思いの中で、デジタル通貨の導入をやろうとしている。このシステムを採用した際には、事業所や市民の多くの皆さんに使ってもらえるような仕組みにしていきたいと思っている。

○おわりに

・今日お話ししたことは、あくまで我々行政が考えていることなので、やはり市民の皆さんのご理解ご協力がないと実現できない。どうかご理解をいただいて、他にもこんな事をすればいいんじゃないか、こんな事が足りていないんじゃないかということがあれば、ぜひ仰っていただければと思っている。

4. 閉会